

建国初期中国の新疆統治における民族と階級 —— 帝国継承国家における国民形成と「帝国の遺産」——

木下 恵二

清帝国の継承国家としての中華民国・中華人民共和国は、多民族統合という点においていかに帝国を近代的に再編したのか。この問いに答えるための作業の一環として、清帝国の周縁であった新疆を取り上げ、建国初期の中国共産党による統治を分析するのが本報告の趣旨である。

中華人民共和国の民族政策は、毛沢東時代において一般的に1957年頃を境に「穏健期」と「急進期」に区分される。しかし、新疆における統治の実態に即して考えると、「穏健期」と「急進期」には一貫した論理と政治動態を見出すことができる。

本報告は、中央の政策と地方の政策執行との乖離という視点から、1950年代前半の新疆における統治、特に統合の論理、政治権力のあり方、社会改革を検討し、新疆統治の実態を明らかにする。それとともに、中核による周縁統合の3つの近代モデルを設定し、そのモデルを用いて、帝国継承国家としての統合のあり方を考察するものである。

分析にあたって設定する周縁統合モデルは、自治や連邦も含めた広義の民族自決を前提とした「民族自決的統合」、植民地主義⁽¹⁾に基づく「植民地主義的統合」、エスニックな要素と領域的、市民的要素が個別的比重で結合する「国民」⁽²⁾を形成する「国民的統合」である。

建国当初、中央政府は多民族統合の観点から民族自治を提起していた。しかし、新疆では階級連帯の論理が強調されていた。民族自決要求が強い新疆のような地域で、中央のように民族自治を強調すると、漢族である中国共産党の指導を貫徹することが困難になる。それゆえ、階級の論理がいわゆる「穏健期」から強調されていたのである。

新疆省の新しい政治権力を確立する際に、毛沢東は、省政府において非漢族を多数派にする一方で、実権を中国共産党が握るための制度を企図していた⁽³⁾。その結果、省の政治権力は、省外から来た6人の漢族によって構成される中国共産党新疆分局常務委員会に握られた。中国共産党に民族自決の実現を期待していた北部三区側の中には、党の実際の政策が明らか

(1) 本報告では、オースタハメル[2005: 37]の植民地主義の定義に拠っている。

(2) 本報告では、スミス[1999: 176]の「国民」についての理解に拠っている。

(3) 中共新疆維吾爾自治区委員会・党史工作委員会・中国人民解放军新疆軍区政治部編[1990: 30]の毛沢東の指示には明確にその意図が記されている。

になるにつれ、民族自決を求める不満の声が上がった。しかし自治区設立過程においても、そのような民族自決の要求は顧みられなかった。

いわゆる「急進期」に批判された民族主義的主張は、社会主義の急進化に反発して、突然1957年の時期になされたのではない。建国以来、新疆においては常に非漢族の民族自決を求める民族主義的主張と、省政権による階級論からの民族主義批判とが対立しながら、緊張感を高めていた。そして中央政府の政治的急進化によって非漢族の民族主義への攻撃が容認されたために、省政権側が容赦ない批判へと踏み出したのである。

社会改革に関して、中央は慎重に進めるよう指示していた。しかし新疆分局は階級の論理のもと、表面上は中央の指示に従いながら、実質的に宗教関連の土地や地主の土地の分配を「土地調整」という形で進めた。さらに新疆南部の農村調査を実施し、ますます強く社会改革の必要性を認識し、中央の指示に反論した。結果的に中央は新疆分局の独走を制止し、分局を改組したが、すでに分配された土地については現状を追認することになった。掲げられた民族文化尊重とは、あくまでも社会改革の妨げにならない範囲に限定されたものであり、中央が想定した以上に、地方は社会改革を優先した。

中央は社会改革を慎重にゆっくり進めることを求めたが、毛沢東はこのような慎重姿勢について、全局を考慮した戦略的判断であったことを明らかにしている。毛は領土の統一と安定、社会主義実現という目的達成のための戦略的手段として、民族政策を利用していた。

建国初期の中国の新疆統治を、周縁統合の3つの近代モデルの観点からみると、民族協力の象徴としての民族自決的外貌、漢族主導によるイデオロギーに比重のある国民的統合の追求、漢族の「代行主義」と民族的差異の尊重や民族意識の強化がもたらす、結果としての植民地主義的統合という、3つのモデルが交錯した状況であったといえる。1950年代末以降、国民的統合の追求が主となったが、これは50年代前半の新疆当局の姿勢を中央が追認したことを意味する。この意味で、統合の面から見た毛沢東時代は、継承した帝国性を払拭する挑戦の時代であったといえる。

参考文献

(中国語)

中共新疆維吾爾自治区委員会・党史工作委員会・中国人民解放军新疆軍区政治部編 1990『新疆和平解放』ウルムチ、新疆人民出版社。

(邦語)

オースタハメル, ユルゲン 2005『植民地主義とは何か』(石井良訳)、論創社。

スミス, アントニー・D 1999『ネイションとエスニシティ: 歴史社会学的考察』(巢山靖司・高城和義ほか訳)、名古屋大学出版会。

(常磐大学総合政策学部)